

Iwaino Daichi

いわいの大地

撮影 石川 誠司 農業委員

これからも良い牛づくりに
努めていきたい



【千厩地域】
千葉直之さん(36)



千葉直之さんは千厩町清田地区で繁殖牛40頭と育成牛8頭を飼育し、牧草地14ヘクタール、休耕田6ヘクタールを管理しています。

16年前に就農して以来、飼養管理技術の向上を重ね、現在は授精師と受精卵移植師の免許も取得し、受精卵移植技術も活用しながら牛群改良に熱心に取り組んでいます。「家畜市場へ牛を出荷して終わりではなく、買われていった牛が美味しい牛肉として店頭に並ぶところをイメージしながら、毎日牛と向き合っています」という言葉からも、情熱が伝わってきます。

「新型コロナウイルス感染症による経済の低迷に加え、原油価格の高騰など先行きは不透明な部分が多いですが、今後も良い牛づくりに努めていきたい」と語る直之さん。

昨年10月には子供が誕生し、直之さん、奥さん、子供さんと家族全員が丑年生まれとなったそうです。奥さんからの「体を大切に、ケガなどに気をつけて頑張ってください」という温かいエールが直之さんを支えています。

農地利用最適化推進委員 遠藤 真一

鳥獣被害対策で
地域ぐるみ電気柵を設置

大東
大原内野地区

大原内野地区は、山あいには位置し清流砂鉄川の源流域ですが、水質保全活動や移住者の受け入れ等地域づくりを積極的に展開しています。又、鳥獣被害対策として、いち早く電気柵設置を取り組みした地域でもあるので、その取り組みを紹介いたします。



「この高齢化のすすむ典型的な中山間地域で、熊の目撃・出没情報が多くなり、人身被害と農作物被害を減らすため、13年前に電気柵の設置を地域ぐるみで行った。設置により被害は減ったものの、震災後、特にシカと小動物が増えたと感じているが、いちたちごっこであり、今は農地周辺の草刈り等環境整備の課題がある」と語るのは、同地区の小野寺進さん(前農地利用最適化推進委員)です。

電気柵の設置については、「内野は大きく3行政区に分かれており、それぞれ補助金等を活用し、

- ①上内野は中山間地域等直接支払制度の共同取り組み活動として3割(上限10万円)助成して3~4年かけて設置。
- ②中内野は市の補助金で1年間100万円(通算200万円)を活用して設置。
- ③下内野は国の全額補助を利用して山側と農地境界を中心に設置した」とのことです。

今後については、「各地で有害鳥獣による農作物被害を減らすことに悪戦苦闘しているが、これからさらなる高齢化が進む中、草刈り、やぶ刈りなど環境整備が難しく、営農の継続は集落だけではできないので、国で対策を考え環境を維持する事が必要だ」と訴えます。

農業委員会ではこうした状況を踏まえて、有害鳥獣による農作物被害対策について資材購入費等補助を新設・拡充することを市に要望しているところ(農業委員 畠山 潔)



新たに選任された 農業委員・農地利用最適化推進委員の 担当地区をお知らせします

一関市農業委員会は令和3年9月に委員改選が行われ、農業委員24人、農地利用最適化推進委員36人が新たに選任されました。任期は令和3年9月20日から令和6年9月19日までの3年間です。

農地等に関するご相談は、お近くの農業委員・農地利用最適化推進委員をお願いします。

(委員の顔ぶれは、市広報2021年11月号に掲載しています。)

地域	担当地区	農業委員	推進委員
一関	一関(三関含)	松岡千賀子	千葉登志幸
	山目	山本佳範	菅原博伊
	赤荻	佐藤宗雄	大越謙一
	中里	山本佳範	菅原博伊
	狐禅寺	松岡千賀子	千葉登志幸
	真滝	菅原吉昭	小野寺敬司
	巖美	佐藤宗雄	小野寺義廣
	萩荘	佐藤宗雄	佐藤洋一
	舞川	佐藤圭一	渡邊克洋
	弥栄	菅原吉昭	佐々木和
花泉	永井	佐藤幸	千葉寿昭
	涌津	佐藤多賀幸	及川善喜
	油島	佐藤	及川善喜
	花泉	小澤仁	佐々木修喜
	老松	及川治雄	千葉貞義
大東	日形	小澤仁	千葉浩昭
	金沢	小澤仁	千葉英一
	大原	鈴木山勝	菅原原一
	摺沢	畠山喜明	菅原川務
	興田	佐藤誠司	小野寺照夫
千厩	猿沢	石川誠司	小野崎盛人
	渋民	菅原潔	菅原豊一
	曾慶	畠山繁	菅原太郎
	千厩	佐藤繁	菅原太郎
東山	小清	千田幹雄	藤葉真太郎
	奥玉	佐藤繁	小野寺彰
	磐清水	千田幹雄	渡邊晃
室根	長坂	佐藤想司	千葉久壽郎
	河津川	佐藤弘也	渡辺弘至
川崎	折壁	藤原美喜男	小野松吉
	矢越	千葉綾雄	小岩正隆
藤沢	津谷川	遠藤勝幸	小野寺修
	薄衣	遠藤勝幸	小野寺修
	門崎	畠山信吾	今野誠志
	藤沢	佐藤和威治	菅原良博
	西口	佐藤和威治	菅原良博
	海田	佐々木栄一	伊藤勉
	徳子	佐藤和威治	佐藤泰雄
砂子	佐藤和威治	菅原良博	
藤沢	増沼	佐藤和威治	菅原良博
	新沼	佐藤和威治	菅原良博
	保呂	畠山信吾	畠山誠志
大籠	畠山信吾	畠山誠志	

就任のご挨拶



一関市農業委員会
会長 石川 誠司

明けましておめでとうございませう。皆様方には健康やかな新年をお迎えのことと存じます。任期満了により、令和3年9月20日より新しい農業委員会がスタートしましたが、今回はからずも私が会長に就任することとなりました。身の引き締まる思いですが、公平・公正な委員会運営と市農業の発展のために全力を尽くして参ります。さて、新型コロナウイルス感染がまだ収束されず、人間の生命が奪われ、心までが脅かされております。コロナウイルス感染拡大は、農業・商工業等あらゆる経済全般に被害を及ぼしています。このような中で、若者の間で都会から地方に移住して「半農半X(エックス)」という農業のあり方があり、注目すべきと思えます。農業とそれ以外の仕事Xとを組み合わせる両立させる若者の参入に期待をしています。世の中の視界はなかなか晴れませんが、今年こそ希望の光が見えてくる良き年であることを願って、就任のご挨拶いたします。



一関市農地利用
最適化推進委員会
委員長 千葉 貞宜

新年、明けましておめでとうございませう。昨年9月、農地利用最適化推進委員会委員長になりました千葉貞宜です。私たち、農地利用最適化推進委員は、各地域において、担い手への農地利用の集積・集約化、遊休農地の発生防止・解消、新規参入の促進など、農地利用の最適化業務に農業委員と協力して進めていきます。さらに、各地域には農業従事者の高齢化・担い手不足および農業従事者の離農など、様々な問題があります。このような問題なども各地域の方々と話し合いながら取り組んでいきたいと思っておりますので、地域の皆様のご協力をお願いいたします。

地域農業の課題 解決へ意見交換

令和3年11月30日花泉町「花と泉の公園」で「関市農業委員会」と市長との懇談会が開催されました。



市長の意見から、市農業者の意見も聞き取り、農業委員会の推進に「令和3年度に実施する意向」を提出し、懇談会に出席した。

意見交換

■農業委員・千田幹雄「千厩」

担い手はものすごい勢いで高齢化が進んでいる。集落組織による農地の集積集約を早急に進めるため、集落営農や法人へさらなる支援をしてほしい。

集落営農や法人化が進んでも、受け入れ体制の面で後継者の雇用が難しい。若い人、女性の職場に欠かせない、休憩所やトイレの整備に援助をしてほしい。

国の経営体基盤育成事業で、所得率アップの要件をクリアするため、高収益作物の栽培をしたいが、田地を畑地にするなど水田活用の直接支払交付金がなくなる。畑地になっても水田と同等の交付金を考えてほしい。

■市長

各地域を回って歩いて、トイレのことは感じた。来年度当初予算で中小企業の従業員の福利厚生のための設備の整備に市の支援を検討している。

■農林部

集落営農や法人への支援については、関係機関の協議会で集落営農フレストップ相談窓口や、集落営農研修会を開催している。

田地を畑地にした場合は、畑作物の直接支払交付金の対象になる。

■農業委員・松岡千賀子「一関」

体験と研修ができる農場があれば、新規参入の促進につながるのではないかと思っています。

農業大学校などもあるが、一関を選んでもらうために、市として研修農場をつくることはできないか。

■農林部

市の新規就農の支援制度としては、JAの臨時職員として農家で研修し技

術習得する研修制度がある。研修農場は、運営や施設管理の体制など課題があるが、そういった施設が必要となることも考えられるので参考とした。

■農業委員・佐藤多賀幸「花泉」

テレビ番組で、新規就農を大幅に受け入れてトマトの生産を拡大したあるJAのトマト部会が取り上げられた。そこは、県、市が居住地を提供して研修先を確保、そして生活まで支えるので、新規就農者が安心してそこに住める。こういうことを実際にやっている地域がある。一関市でも参考にしたい取り組みをしてほしい。

■市長

新規参入の促進は、一番大切なテーマだ。今の農業、農地を守っていくには、みなさん方の子どもさんではない方がみなさん方の農業を継いでいかなくてはならない、農地所有と農家経営の分離だと思える。今、廃棄物処理施設の候補地選定をしている。その焼却場から出る熱エネルギーを使って、農業用ハウスができないか、そこをベースにして、新規就農者をトレーニングするシステムができないか検討している。

■農業委員・畠山信吾「藤沢」

有害鳥獣被害は、農作物被害というところを飛ばし飛ばし越えて、一般の市民生活にも被害を及ぼしている状態だ。その対策に要する費用に対しての補助率であったり、補助対象物の拡充を考えてほしい。

■農林部

狩猟免許取得費の補助については、銃と罠を使う免許取得に2分の1補助をしている。罠については、国の補助金を活用して罠を購入し、猟友会に貸し出している。必要な地域は、相談を、電気柵の設置は、毎年要望が多く、予算を使い切ってしまうので、国に増額要望を

している。罠の見回りをする捕獲応援隊制度に地域のみなさんご協力をお願いしたい。

■農業委員・佐藤想司「東山」

東京で、電車の中吊り広告の中に、うちの町に移住しませんか、という広告を出しているところがあって、すごいなど感心した。当市も、まず中心部だけでもいいから、人を呼び込むことを積極的にやるべき。とにかく市の魅力を発信し、もつと積極的に動いてほしい。

■まとめ・市長

いろいろな課題がある中で、今まで現場サイドで頑張ってきた、それで一関の農業、農村を守ってきた。しかし、ここから先はものすごい勢いで人口が減っていく、今までのように現場サイドで頑張っているだけでは物事は進まない。急いで事柄を解決しなければいけないところと、もつと長期的な視点で戦略的に一関の農業というものを考えていかなければいけないところと、その両方に取り組んでいく。農業は一関市の基幹産業であるという、その基幹産業という意味は何なのか、答えを出していきたい。



岩手県農業委員会大会 において農政功労者等 で表彰される

市長に受賞の報告



令和3年11月10日、盛岡市都南文化会館で令和3年度岩手県農業委員会大会が開催されました。同大会において、一関市農業委員会から農政功労者ほか各部門で5人が一般社団法人岩手県農業会議より表彰を受けました。

11月24日には、市長に受賞の報告を行いました。

【農政功労者】

伊藤公夫さん(前農業委員会会長、東山)

【永年勤続農業委員】

伊藤公夫さん

鈴木勝さん(農業委員、大東)

【農業委員会等活動・農地利用最適化推進活動部門】

伊藤勉さん(農地利用最適化推進委員、藤沢)

【農業委員会等活動・農業者年金部門】

佐々木栄一さん(農業委員、藤沢)

【農業委員会等活動・全国農業新聞部門】

菅原吉昭さん(農業委員、一関)

農業者年金で明るい将来計画!

安心な将来のためは今からの



【東山地域】那須 一樹さん

農業者年金は農業者の方なら広く加入できる年金です。詳しくは一関市農業委員会事務局へお問い合わせください。
電話 21-8692

名前「ちななだ」[ONE TREE FARM]の屋号でトマト、ミニトマト、ケール、野菜苗などを生産する那須一樹さん(36)。アパレル会社勤務を経て平成30年に就農しました。祖父正治さん、父元一さんが農業に取り組み姿を見て育ち、「うちがは就農するのが当然だと思っていた」と振り返ります。

現在は父も取り組むトマトが主体ですが、今後は赤ちゃんのほっぺのようなと形容されるミニトマト「ぶちぶち」が柱になればと願う一樹さん。「そのおいしさで、愛される商品だから」と語ります。

若手農業者で組織する両替4Hクラブ会長を務める一方、一関青年会議所、一関商工会議所青年部など、農業の枠にとどまらず様々な組織に所属し、「地域全体が盛り上がりながら農業も活性化しなさい」と異業種交流にも力を入れています。

農業者年金は、父の勧めで加入しました。気象条件で収入が左右されることもある農業だけに、経営の安定のために必要なものとして入っています。

農地賃借料情報

令和2年1月から同年12月までに締結(公告)された賃借料における賃借料水準(10アール当たり)は、以下のとおりとなっています。

① 田(水稲)の部(10a当たり)

	平均額	最高額	最低額	データ数
一関・花泉地域	6,294円	11,697円	2,457円	1,744
大東・千厩・東山・室根・川崎・藤沢地域	7,630円	13,841円	3,000円	381

備考

- 今回公表する賃借料情報は実際の契約の参考としていただくために、それぞれの地域ごとに契約額が極端に高額、低額(平均値の1.7倍以上および0.3倍以下のもの)な実例をあらかじめ削除し全体集計しています。
- 賃借料が無料の使用貸借契約もありますが実例として含めていません。
- 実際の賃借料契約の際は、対象農地の収穫見込み量や形状、隣接する道水路などの状況を考慮し、両者で協議の上決定してください。
- 令和3年1月から令和3年12月までにおける賃借料情報は、またまらしい農業委員会事務局の窓口とホームページでお知らせします(2月ごろを予定)。

② 畑の部(10a当たり)

	平均額	最高額	最低額	データ数
一関・花泉地域	4,022円	6,615円	2,016円	58
大東・千厩・東山・室根・川崎・藤沢地域	3,013円	5,218円	1,206円	100



購読料
月額 700円

全国農業新聞の購読を!

農業委員会組織が協力して作成している新聞で、毎週金曜日発行しています。
●お申込みは、農業委員会または各支所産業建設課まで

米価下落対策の支援

市では新型コロナウイルス感染症の影響に伴う支援策として、水稲生産者の令和3年産主食用米出荷経費相当額(検査米1袋(30キロ)当たり121円)を補助します。JAいわて平泉などの集荷業者へ出荷する生産者には集荷業者を通じて補助し、産直などで販売する生産者には市から直接補助します。詳しくは下記にお問い合わせください。

お問い合わせ 本庁農政課 電話21-8426

編集後記

昨年九月新制度の農業委員会として二期目がスタートした。

伴い、写真の如く編集委員も大分入れ替わりがあった。

これまで先人が切り拓いてきた貴重な優良農地を次の世代に引継ぎ、新規参入を進めるため、これからの担い手、がんばる担い手をできるだけ紹介しながら、農業委員会の活動を広く皆さんに伝えて参りたい。

十一月三十日に行われた一関市長との懇談会では、市長から、農地の所有と経営のあり方を様々な角度から検討をするよう関係者に指示しているとの情報提供が早速なされた。

また、様々な場面で使われている本市の「基幹産業である農業」とは何を表すか?について。

昨年の地域農業マスタープラン策定過程で多くの集落から出された課題の解決に繋がればと期待したい。

一昨年来、いわゆる新型コロナウイルスの影響が様々な方面に表れるなかでもまさに牛歩の如くではあるが、新たな歩みを進めてきた。

迎えた本年は五黄の寅、千里をかけるといわれる如く何事にも正面から果敢に取り組みんで参りたい。

皆様方のご支援ご協力をお願い申し上げます。

編集委員長 佐藤 和威治

いわいの大地編集委員紹介

編集委員長	佐藤 和威治 (藤沢)
副委員長	嶋山 潔 (大東)
編集委員	松岡 千賀子 (一関)
	佐藤 多賀幸 (花泉)
	遠藤 真一 (千厩)
	佐藤 想司 (東山)
	藤原 美喜男 (室根)
	小野寺 修 (川崎)

